わたしの教科書

佐賀県 武雄市立武雄中学校 2年
山崎 佑月

わたしの教科書は、皆のものとは少し違います。内容や挿し絵などは、ほとんど変わりません。違うのは、字の大きさです。字の大きさが皆の教科書の二倍くらいあるのです。

わたしがこの「拡大教科書」を使っているのは、四歳の時に脳腫瘍という病気になってしまったからです。左目はほぼ見えず、右目の微かな視力で、今も生活しています。

わたしと同じように視力が弱かったり、目が見えなかったりする子供たちは、世界にたくさんいると思います。そんな子供たち、それぞれの見え方に応じた教科書や教材等を用意してくれている社会には、感謝しています。わたしのように弱視の子どもに対しては、初めは倍率が変わる拡大補助具を使いこなすように指導がされていたそうです。ルーペのような物だったのでしょか。しかし年齢が低い子どもなどは拡大補助具を使うのが困難なケースも多くあったそうです。興味をもった絵を大きくしてみるの楽しいでしょうが、言葉や文を追うのは大変だったのでしょう。内容を理解する前に大きな苦労があると、勉強が嫌になってしまうことは、わたしもよく経験しました。そこで、教科書や教材そのものを大きくした拡大教科書・拡大教材等が生み出されました。ただし、それらは長年、ボランティアの方やそのような児童生徒を身近に持つ先生たちが中心になって、限定品に近い物を手作りされていたということです。大きな出版社が拡大教科書を作成するようになったのは、一九九二年のことです。

昨年四月、中学校の入学式のあと拡大教科書を教室でもらった時は、安心しました。内容が難しくなる不安よりも、変わらぬ見やすさに嬉しくなったのです。中学校で初めて一緒になった友だちはわたしの病気のことや視力が弱いことを知らないため、どうして一人だけでっかい教科書をドカンドカンと机の上に置かれているのだろうと、こちらをちらちら見ていました。

わたしがこの拡大教科書に出会ったのは、小学四年生の時です。あれから四年間、この拡大教科書に助けられています。もしも今でも皆と同じ教科書しか使えていなかったら、とっくに勉強なんか投げ出していたらと思います。

初めて拡大教科書を手にした時、それまでと違ってすごく紙面が見やすく感動しました。しかし、ページ数が分かりづらいのです。

「〇〇ページを開きなさい」と先生に指示されても、わたしの教科書は字が大きいので通常の一ページの内容が一ページに収まらず、〇〇ページの一、〇〇ページの一、〇〇ページの一…と、「〇〇ページ」が何ページにも分かれてしまいます。しばらくはうまく使えず、絵や先生が読み上げる文章で判断しながらページをめくっていました。付いていくのに大変でした。今では慣れて、授業のペースに遅れることはありません。次はこの辺りだな、と見当を付け数ページ飛ばして開く早業も身に付けています。

もう一つ、困ったことがありました。わたしの教科書は、冊数も多いのです。毎日の

カバンは重くなり大変です。また、表紙に①②③などと振ってありますが、いつ①の教科書を使い終えて②に移るのか戸惑うことがありました。皆の教科書は大体一冊にまとまっているので、途中で替えたりしないのが普通でしょう。しかし、これにも慣れました。どんな内容が①に載っていて、どの辺りで②に移るのかを、予習するようになったのです。わたしはそれほど勉強ができる方ではありませんから、家庭での勉強は宿題と復習が中心です。そこに予習が加わったので、父母や妹たちが驚くやらからかうやら。わたし自身は自慢気な気分になっています。

拡大教科書の不便な点ばかり並べましたが、皆のものより優れている所もあります。字が大きいだけでなく、拡大教科書は写真や図、グラフもすべて拡大で載っているのです。例えば顕微鏡を使って撮影された微生物などは、通常の教科書と拡大教科書では倍率が違います。「そっちが特徴を見つけやすいね」とのぞき込んでくる友だちもいます。

脳腫瘍という病気にかかり、手術をして治るか目が見えなくなるかと言われたわたしは今、拡大教科書に助けられて勉強することができています。手術をしてくださった先生や病院の方、見守ってくれた両親、この拡大教科書を作ってくれた方々、感謝の気持ちというものを実感します。また、皆と違うものを使っていることが、不安でなく自慢にもなることを知りました。

教科書に載っている内容は様々なことを教えてくれます。それ以上に、わたしが生きていく上で大切なことを拡大教科書が教えてくれています。